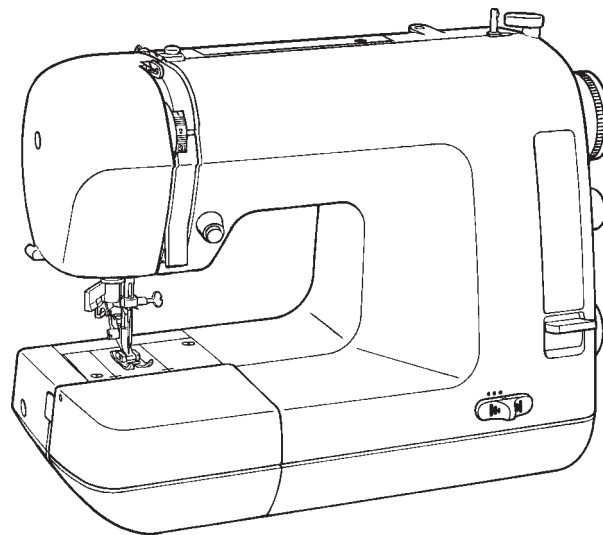


Hitachi Living Systems 使用の手引き



- ★ ご使用前にこの『使用の手引き』を十分お読み下さい。
- ★ この『使用の手引き』は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管して下さい。

HJ-008

＝ 安全にご使用いただくために ＝

このミシンを、安全にご使用していただくために、以下のことがらを守って下さい。

このミシンは、日本国内向け、家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY

⚠ 警告 感電、火災の恐れがあります

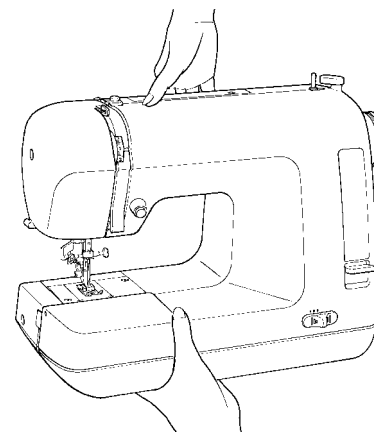
1. 一般家庭用交流電源 100V でご使用下さい。
2. 以下のような時は、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いて下さい。
 - ・ ミシンのそばを離れるとき
 - ・ ミシンを使用したあと
 - ・ ミシン使用中に停電したとき

⚠ 注意 感電、火災、けがの原因となります

1. お客様自身での分解、改造はしないで下さい。
2. ミシンの操作時は、かまカバー、面板などのカバー類を閉じて下さい。
3. ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、プーリー、天びんなどすべての動いている部品に手を近づけないで下さい。
4. 曲がった針はご使用にならないで下さい。
5. 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないで下さい。
6. お子様のご使用になるときや、お子様の近くで使用されるときは、特に安全に注意して下さい。
7. 以下のことをするときは、電源スイッチを切って下さい。
 - ・ 針、針板、押え、アタッチメントを交換するとき
 - ・ 上糸、下糸をセットするとき
 - ・ ランプを交換するとき（ランプが冷えてから行って下さい）
 - ・ 『使用説明書』に記載のあるミシンのお手入れを行うとき
8. ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、お近くの販売店、または、サービスセンターにて点検、修理、調整をお受け下さい。
 - ・ 正常に作動しないとき
 - ・ 落下などにより破損したとき
 - ・ 水に濡れたとき
 - ・ 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき
 - ・ 異常な臭い、音がするとき

⚠ ミシンを移動するときの注意

1. ミシンを移動するときは、図の様に両手で持って下さい。



⚠ その他の注意

1. 最初にミシンを使用するときは、押え金の下に布切れを置いて、糸を使用しないで、ミシンを操作し十分に油気を取り除いて下さい。

も く じ

1. ご使用になる前に

各部の名称	2 ~ 3
電源のつながり方、スタート・ストップスイッチ、スピード切替スイッチ	4
糸立て棒のセット、押え上げ	5
フリーアーム（筒縫いのしかた）、返し縫いレバー、縫い模様指示器、縫い目長さダイヤル	6
下糸の巻き方	7
ボビンケースの取り出し方、ボビンケースへの糸の通し方	8
ボビンケースの取り付け方、針と糸の使い方、針のとりかえ方	9
上糸のかけ方	10 ~ 11
下糸の引き上げ方	12

2. さあ縫ってみましょう

ミシンのセットのしかた	13
直線縫い	
縫い方、縫い方向の変え方	14
上糸調子のとり方、下糸調子のとり方	15
押えの取りかえ方	16
ジグザグ縫い、かくし縫い（ブラインドステッチ）	17
点線ジグザグ縫い、シェル縫い	18
つき合せ縫い、ランジェリー縫い、ファゴット縫い	19
飾り縫い	20
ボタンホール（ボタン穴かがり）	21 ~ 22

3. ミシンの手入れ

電球の取りかえ、かまの掃除、送り歯の掃除	23
----------------------	----

4. ミシンの調子が悪いとき、次の原因を確かめましょう

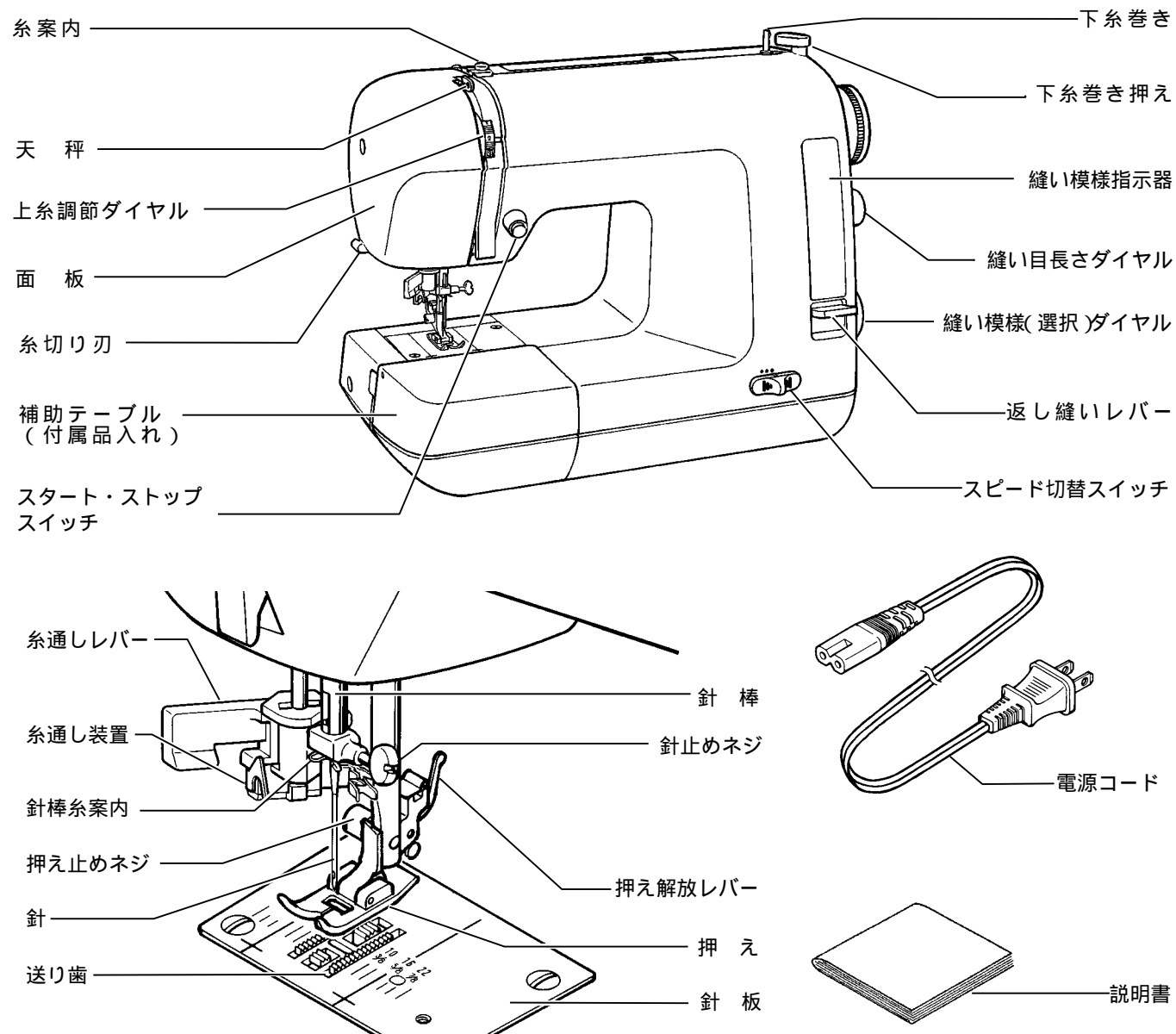
5. 保証とアフターサービス

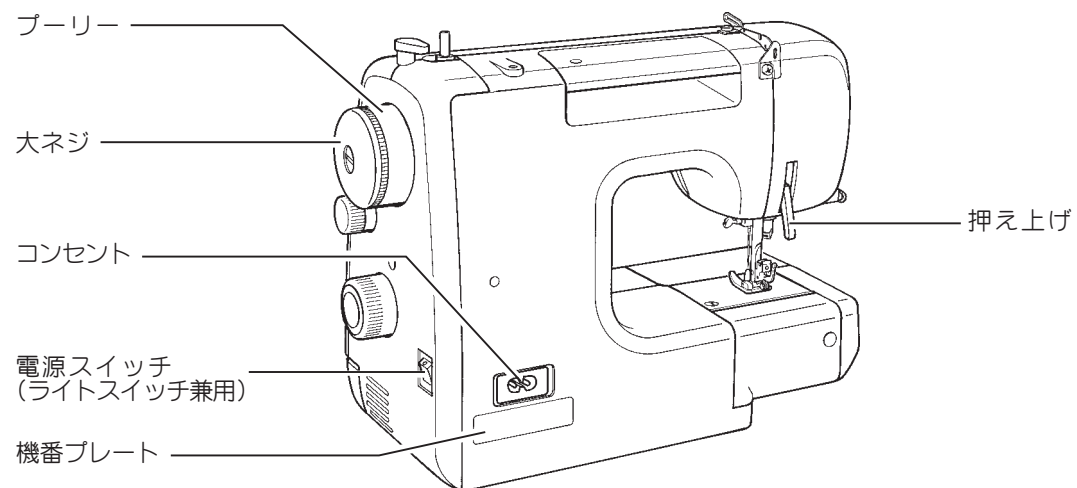
ミシンの仕様

本体寸法	: 巾 35.2 × 奥行 15.5 × 高さ 25.5 (cm)
本体重量	: 6.5 kg (補助ベッド付き)
定格電圧	: AC 100 V
定格消費電力	: 76 W
定格周波数	: 50 / 60 Hz

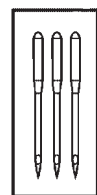
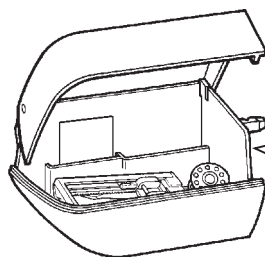
1. ご使用になる前に ……

各部の名称





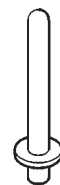
図の様に付属品入れのふたを開けると、次の付属品が入っています。



針セット
(#14×3本)



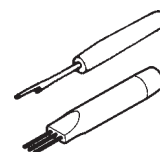
ボビン (2個)



糸立て棒



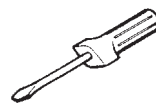
糸立て座



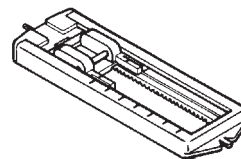
シームリッパー/
ブラシ



ネジ回し (大)

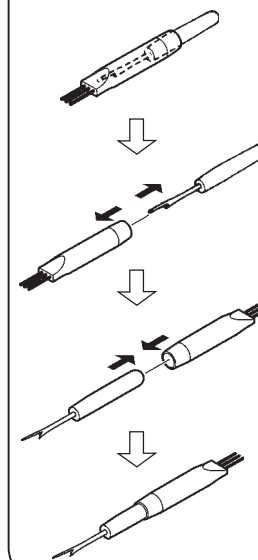


ネジ回し (小)



ボタンホール押え

シームリッパー / ブラシ



電源のつなぎ方

- ・スタート・ストップスイッチを「ストップ」、スピード切替スイッチを「off」、電源スイッチを「OFF」にしてください。
- ・電源コードのプラグを 、 の順にさし込みます。
- ・電源スイッチを押して電源を入れます。（照明ランプも同時につきます。）

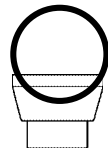
⚠️ ご注意

- ミシンを使用しない時は、必ず電源スイッチを切り、電源コードを電源から抜いてください。

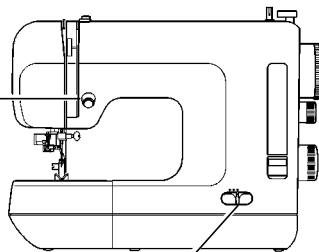
スタート・ストップ
スイッチを「ストップ」
位置にセット



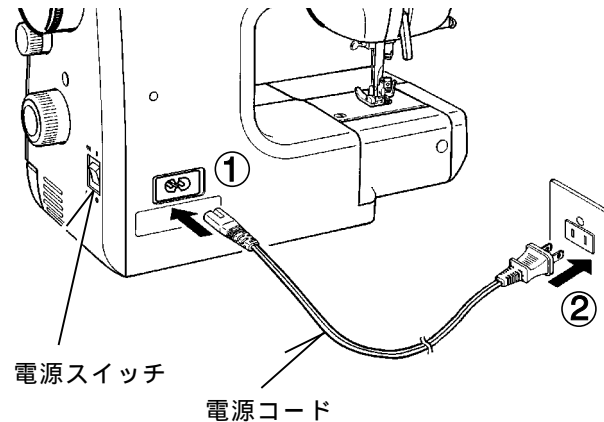
スタート



ストップ



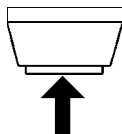
スピード切替スイッチを
「off」にセット



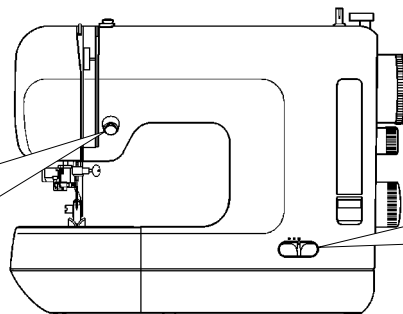
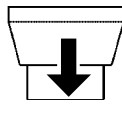
スタート・ストップスイッチ

電源スイッチを「ON」にし、スピード切替スイッチを「はやい」または「おそい」に入れた後、このスイッチを押し込むとミシンが動き出します。

スタート



ストップ

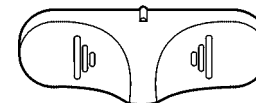


スピード切替スイッチ

ミシンの回転速度は、スピード切替スイッチによって「はやい」(高速)と「おそい」(低速)の2段切替ができます。

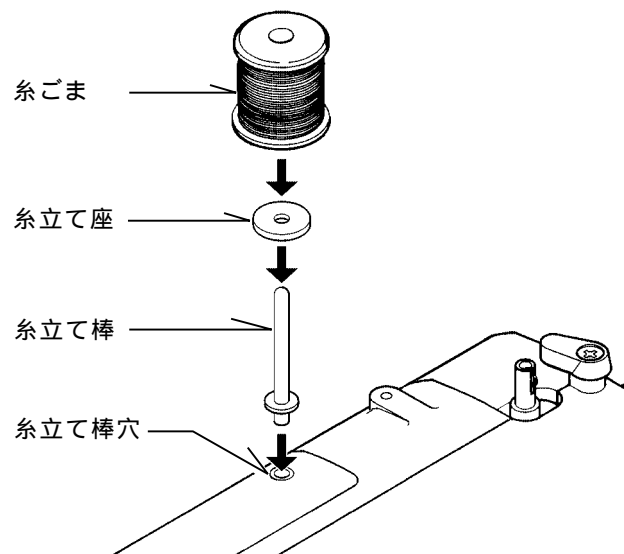
スピード切替スイッチ

はやい おそい off



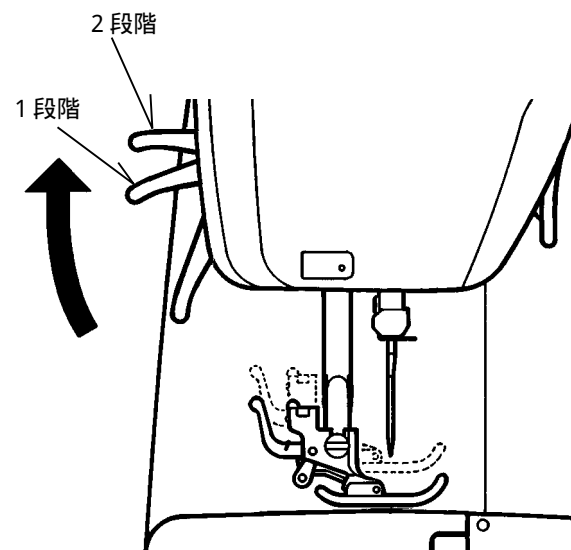
糸立て棒のセット

1. 付属品入れから糸立て棒と糸立て座を取り出し、糸立て棒を糸立て棒穴に取り付けた後、糸立て座をかぶせます。
2. 糸立て棒に糸ごまを差し込みます。



押え上げ

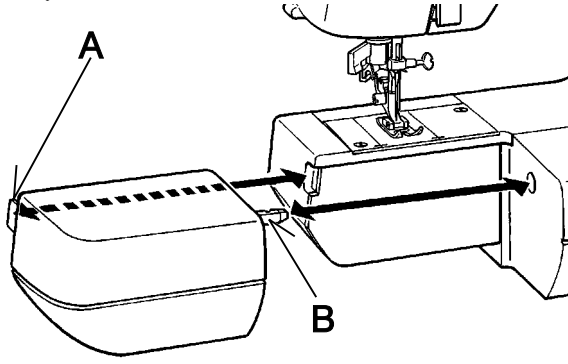
1. 縫うときは、押え上げを下げておきます。
2. 押え上げは2段階です。2段階目に押え上げを上げる時は、手で支えながら、さらに持ち上げます。



フリーアーム(筒縫いの仕方)

このミシンは、補助テーブルを左に引っ張って外すとフリーアーム型になります。

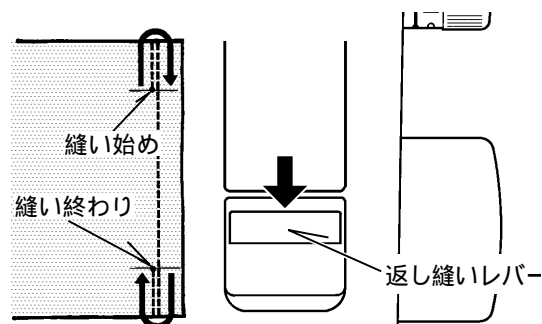
補助テーブルをもとに戻すときは、テーブルをミシンに沿ってすべらせながら、案内ピン(A、B)を所定の位置に差し込みます。



返し縫いレバー

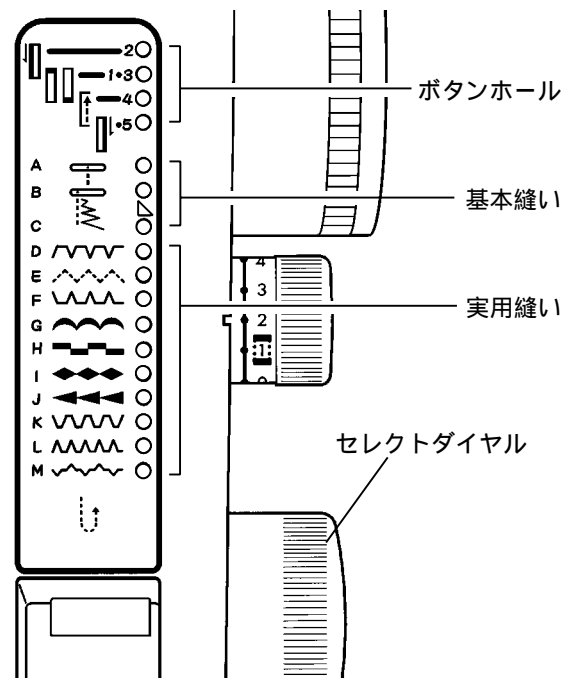
縫い始めと縫い終わりの数針は返し縫いを使うのが最適です。これは止め縫いと呼ばれていますが、縫い目の端をしっかり止め、ほどけないようにします。

返し縫いをする場合は、レバーを押し下げて、縫っている間そのままにしておいてください。布はすぐに返し縫いを始め、縫い目がとまります。



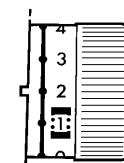
縫い模様指示器

模様表示は○窓に表示されるのでセレクトダイヤルを回すだけで希望の模様が選択できます。



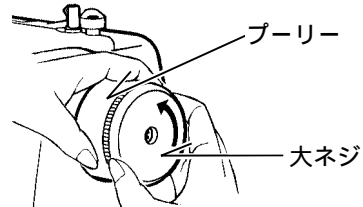
縫い目長さダイヤル

1. 縫い目は、数字が大きくなれば長くなります。
2. 1の周囲のマークは、ボタンホールのセット位置です。

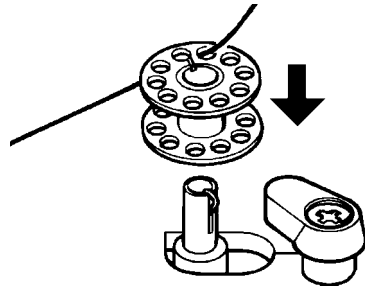


下糸の巻き方

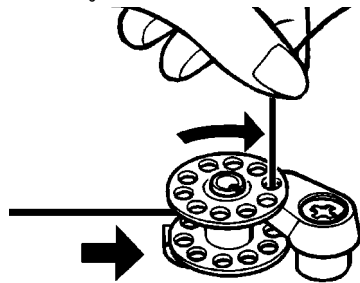
1. プーリーをしっかりとつかみ、大ネジを矢印の方向に回してゆるめ、ミシンを空転の状態にします。



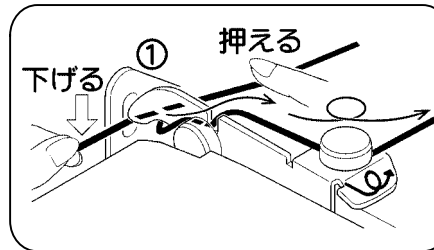
3. ボビンの穴に糸を通し、ボビンを下糸巻きにはめこみます。



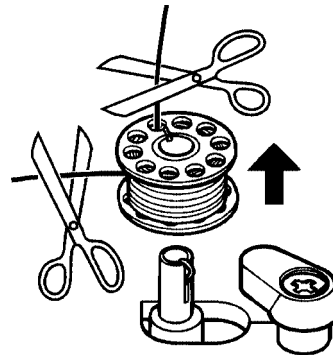
4. 糸の端を持ち、ボビンを矢印の方向に押します。スピード切替スイッチを「おそい」または「はやい」に入れ、スタート・ストップスイッチを押し込みます。ボビンが数回転したら、糸を離してください。



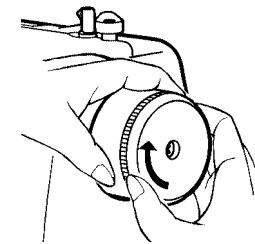
2. 糸立て棒に糸ゴムを入れ、糸を押えたまま糸案内 に糸をかけ、下糸巻き案内を経由して糸ごまから糸を引きます。



5. 下糸が一杯になって、自動的に下糸巻きが止まったら、スタート・ストップスイッチをもう一度押してミシンを止めます。下糸巻きからボビンを外し、糸の端を切ってください。

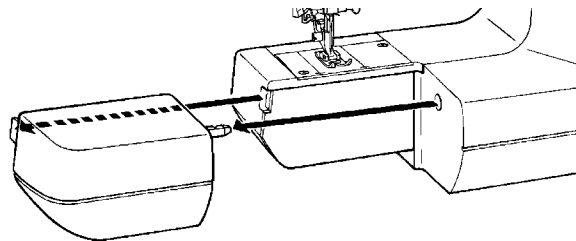


6. 大ネジを矢印の方向に回して固く締めます。

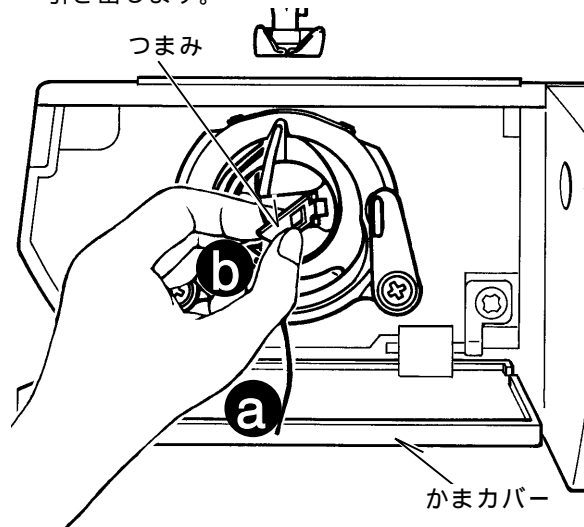


ボビンケースの取り出し方

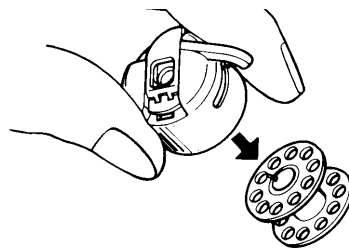
1. 補助テーブルを左に引っ張って外します。



2. a. かまカバーを開けます。
b. ボビンケースのつまみをおこし、ボビンケースを引き出します。

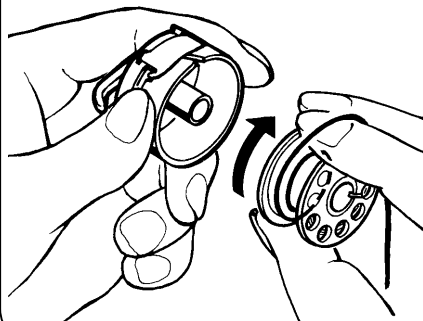


3. ボビンケースのつまみをはなし、下向きにすると、ボビンが取り出せます。

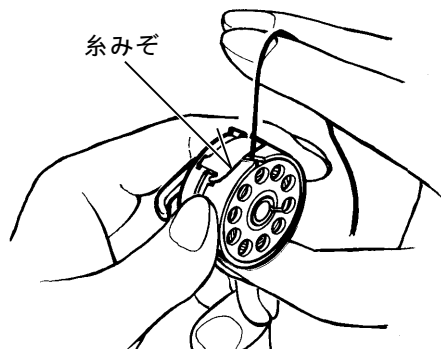


ボビンケースへの糸の通し方

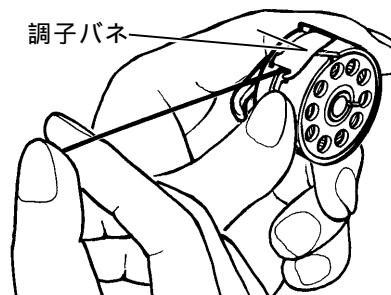
1. 糸を右回り（時計の針と同じ方向）に出してボビンをボビンケースに入れます。



2. ボビンケースの糸みぞに糸を入れます。

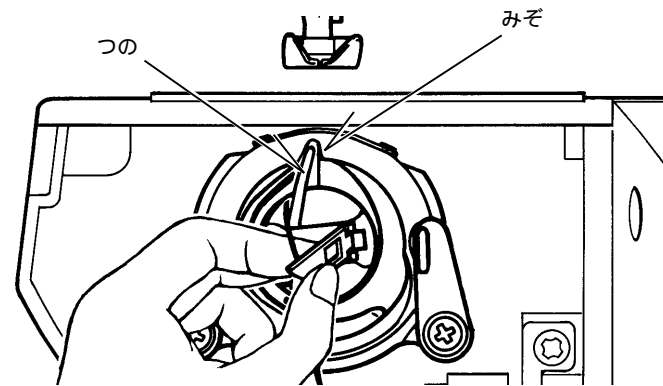


3. a. 糸みぞから調子バネの下へすべり込ませます。
b. ボビンケースから糸を10 cm ぐらい引き出しておきます。



ボビンケースの取り付け方

つのを真上にして、つまみを持ち、つのをかまのみぞにはめてセットしてください。



針と糸の使い方

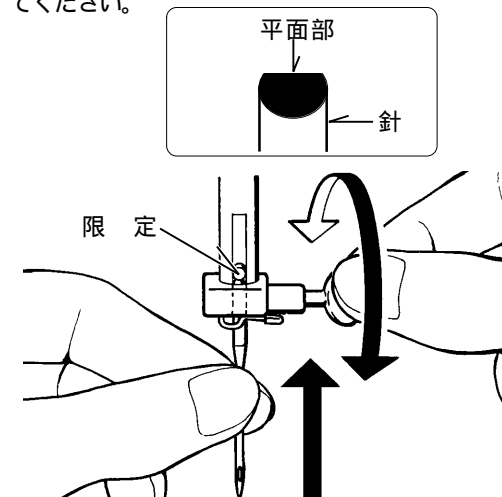
H A - 1 家庭用の針を使用してください。針の番手は糸の番手と適合し、布地にマッチしていることが大切です。
通常上糸と下糸に同じ番手の糸を使います。
曲がった針や先の丸くすりへった針は使用しないでください。

布 地	針	糸
薄 地 デ シ ン 薄 絹 地	9 番 (細 い)	1 2 0 番 1 0 0 番
薄 物 布 地	1 1 番 (や や 細 い)	1 0 0 番 8 0 番
キャラコ・木綿地 サージ・伸縮布地	1 4 番 (普 通)	6 0 番 5 0 番
毛 織 物 厚 地 類	1 6 番 (太 い)	4 0 番 3 0 番

普通針で目とびするニット地（ジャージ、トリコット等）には、別売りのニット専用針を使用されると、目とび、布の地糸切れが防げます。この針のサイズは14番ですので、このサイズに適した糸を使うことをおすすめします。

針のとりかえ方

プーリーを手前に回し、針棒を最上点に上げてください。針止めネジをゆるめてください。針の柄の平面部を向う側に向けて持ち、そのまま針棒に差しこんでください。針が針棒溝内の限定に当るまで押し込み、針止めネジをかたくしめてください。



上糸のかけ方

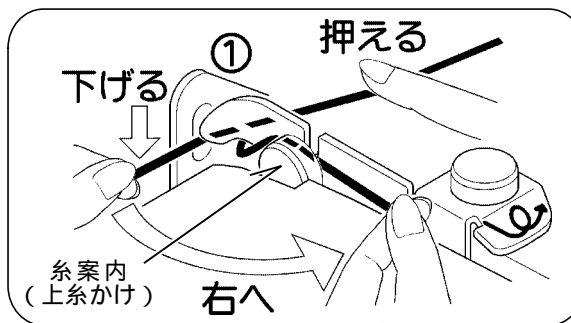
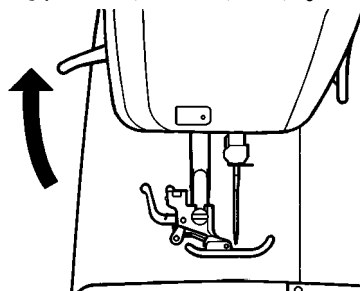
上糸かけの順序

A. 押え上げを上げます。

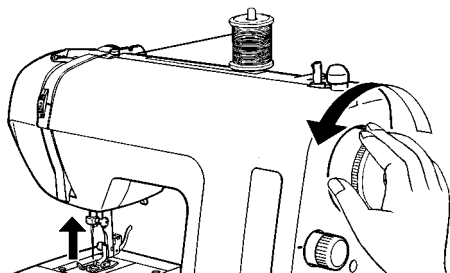
B. プーリーを手前に回して、針を上げます。

C. 図の順番に糸をかけます。

A. 押え上げを上げます。

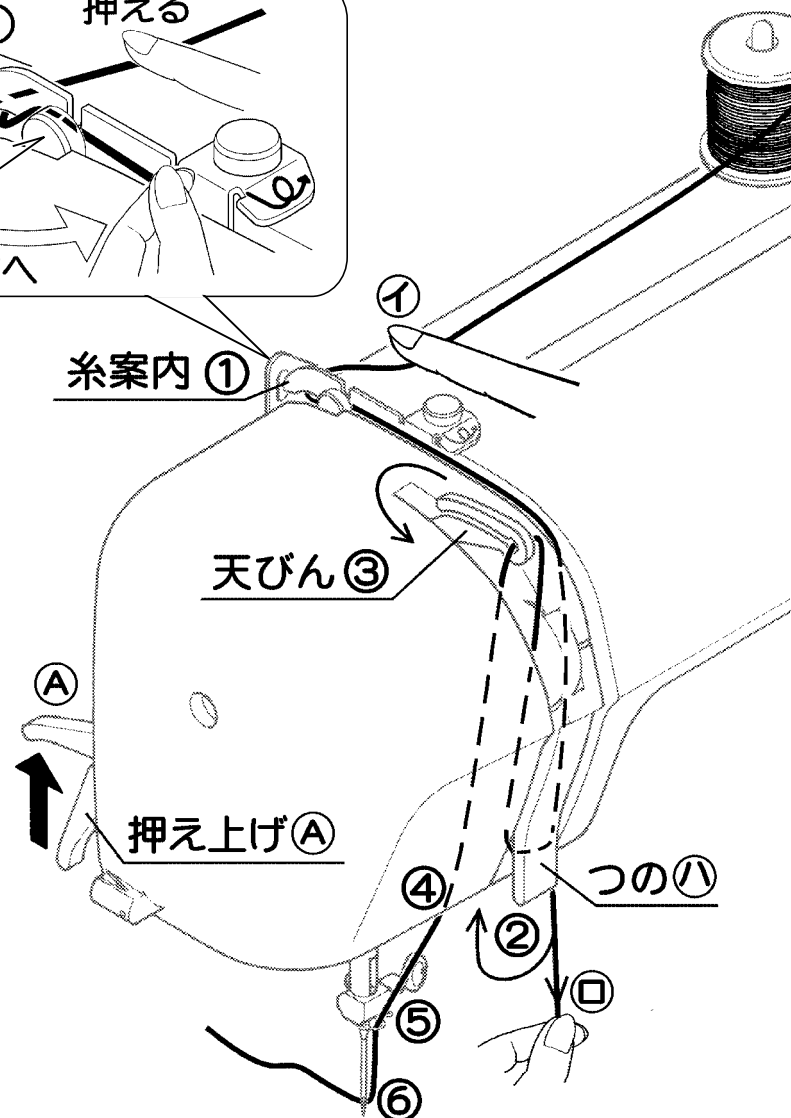


B. プーリーを手前に回して、針を上げます。



C. 図の順番に糸をかけます。

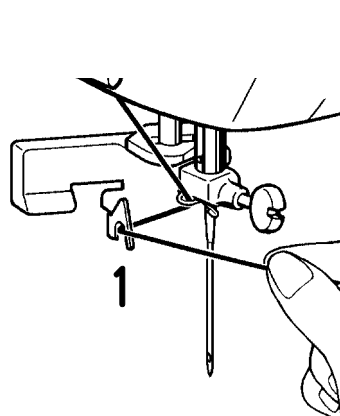
- ・糸①を押えたまま糸案内 に糸をかけ、溝にそって下へ㊦ひっぱる。
- ・つの⑧の内側にUターンする。
- ・天びん へ右から左に糸を入れる。
- ・溝の内側 へ入れる。
- ・糸掛け に糸をかける。
- ・針穴 に前から後ろへ糸を通す。



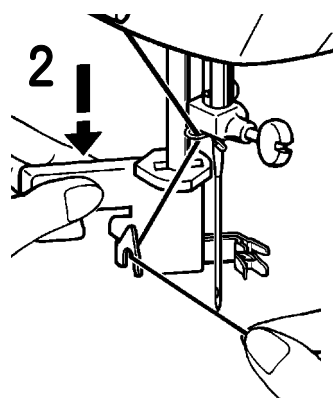
針穴系通し装置の扱い方

- 押え上げレバーを下げます。
- プーリーを手前に回し、針を最上点付近にしてください。

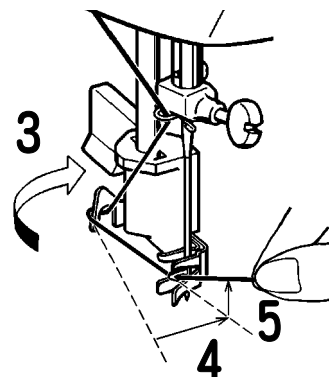
1. 上糸をガイドに図のようにかけます。



2. 糸を保持したまま、レバーを限定まで下げます。

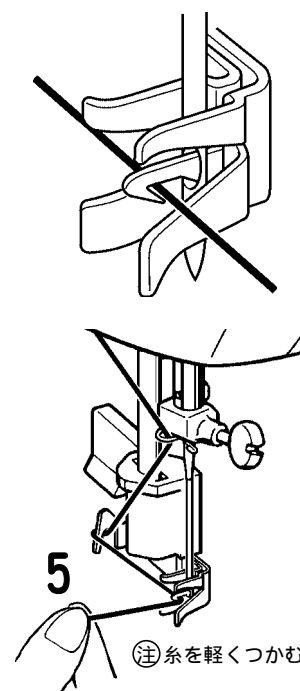


3. 図のように糸通しカギが針穴に入る方向に回転させてください。
③針最上点でないと、レバーは回転しません。

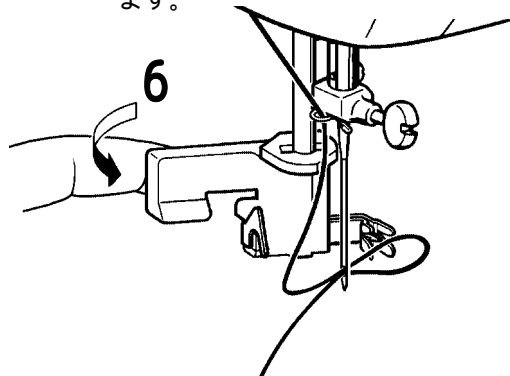


4. 糸を二又の下に入れ、

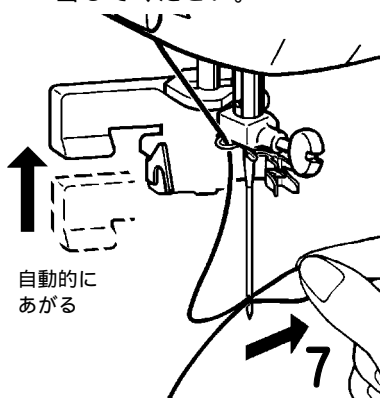
5. 糸通しカギにひっかけます。糸を軽くつかみ、正面手前で保持してください。



6. レバーを後方より押すと、糸が針穴後方に輪になって通ります。



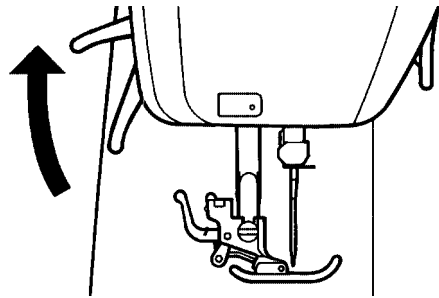
7. 輪になった糸を向う側に引き出してください。



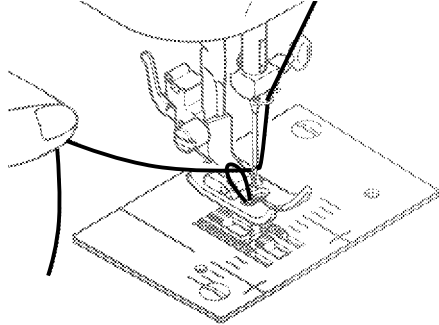
- 細い針に太い糸を使うと糸通しが出来ません。
- ミシンが動いている時に糸通しレバーをさげると故障の原因になりますのでご注意ください。

下糸の引き上げ方

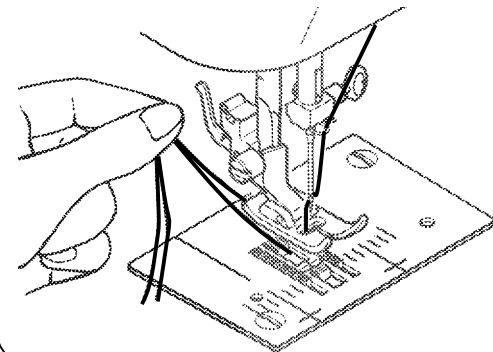
1. 押え上げを上げてください。



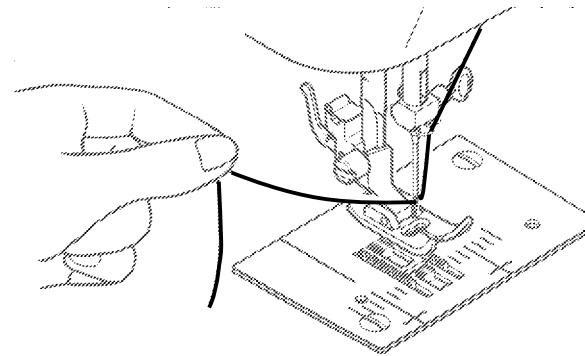
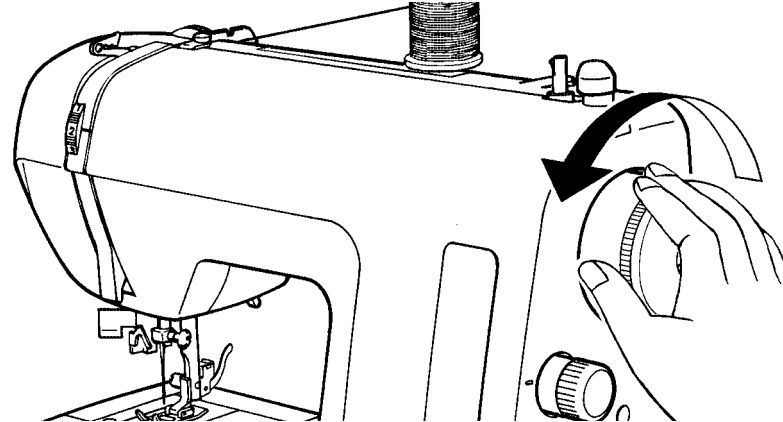
3. 左手の上糸を軽く引っ張り上げると、下糸がついてあがります。



4. 両糸を押え金の下を通して後ろへ引き、糸を10 cmほど残しておいてください。



2. 針糸をゆったりと左手で持ち、プーリーを手前に完全に一回転させください。



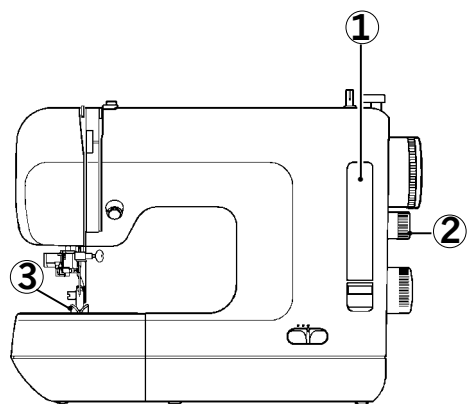
＝ チェックポイント ＝

図の手順で下糸が引き上げられない場合は、次の点をチェックしてください。

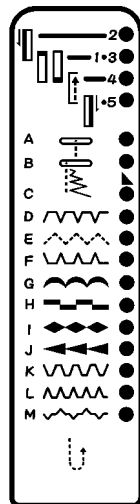
1. 針に糸が通っていますか？
2. 糸が針の回りにからまっていませんか？
3. ホビンケースから糸が10cmほど出ていますか？
4. ホビンケースから出た糸がもつれていませんか？
5. ホビンケースに糸が正しく通っていますか？

2. さあ縫ってみましょう ……

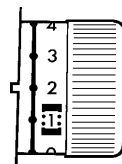
ミシンのセットの仕方



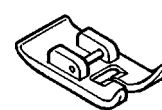
1. 縫い模様表示



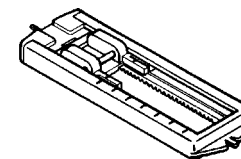
2. 縫い目ダイヤル



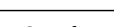
3. 押 え



ジグザグ押え



ボタンホール押え

縫 い 模 様	1. 縫い模様表示	2. 縫い目ダイヤル	3. 押 え
直線縫い 中基線 直線縫い 左基線	A  B 	1 - 4	ジグザグ押え
ジグザグ縫い	B  C 	0.5 - 4	
かくし縫い	D 	1 - 4	
点線ジグザグ縫い	E 		
シェル縫い	F 		
つき合せ縫い	K 		
ランジェリー縫い	L 		
ファゴット縫い	M 	0.5	
飾り縫い スキャロップ	G 		
飾り縫い ドミノ	H 		
飾り縫い ダイヤモンド	I 		
飾り縫い アロー	J 		
ボタンホール		1  2  3  4  5 	 ボタンホール 押え

直線縫い

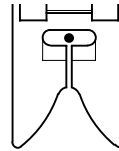
A



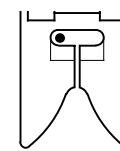
B



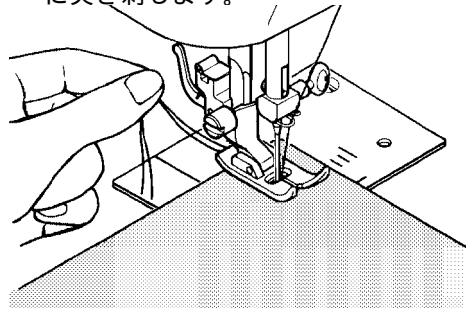
縫い模様 **A** で縫う時は、
中基線になります。



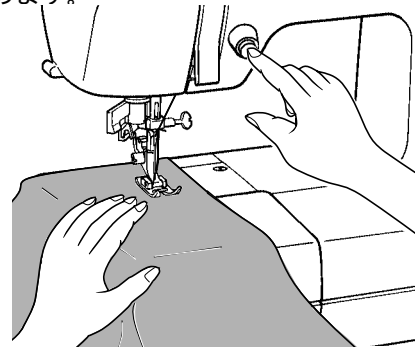
縫い模様 **B** で縫う時は、
左基線になります。



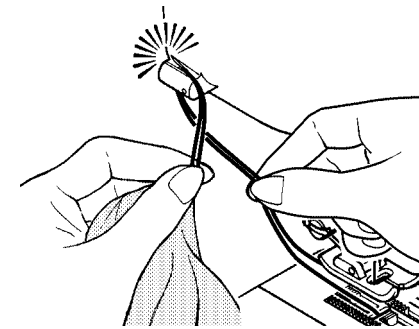
1. 上糸と下糸をそろえて押えの下から向う側へ10 cmほど引き出します。
2. 布を押えの下にいれ、押えを下げます。
3. プーリーを手前に回して、針を布に突き刺します。



4. 軽く布地に手をそえ、スタート・ストップスイッチを押して縫い始めます。
5. 布端まで来たら、スタート・ストップスイッチをもう一度押してミシンを止めます。

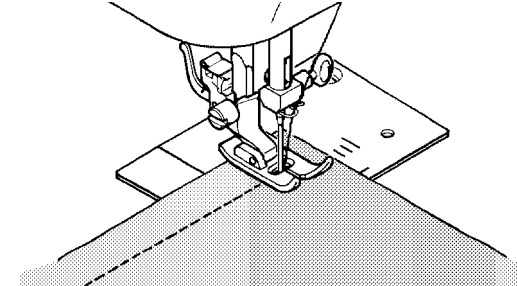
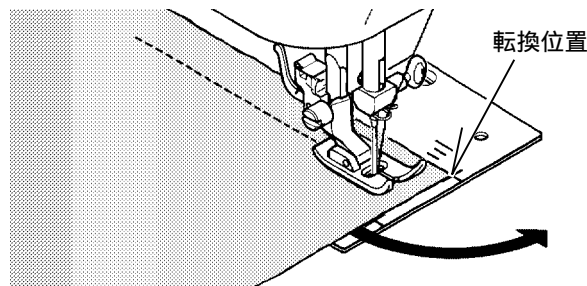


6. 押えを上げ、布地を後ろへ引き出し、面板部の糸切りまたは押え棒に付いている糸切りで糸を切ります。切った糸は、面板部の糸切りに引っかけておきます。



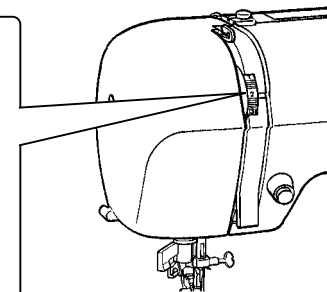
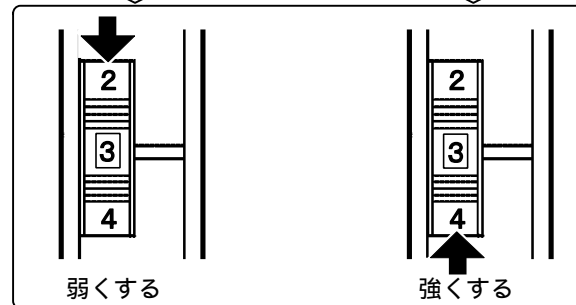
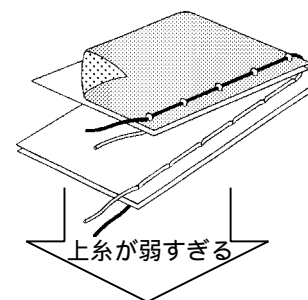
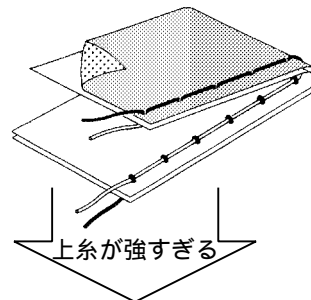
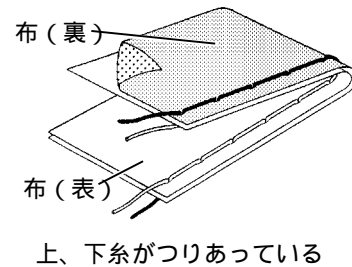
縫い方向の変え方 (布端から16 m/mで縫う場合)

1. 布の角が針板上の「転換位置」に来たらミシンを止めます。
2. プーリーを手前にまわして針を布地に突き刺し、押えを上げます。
3. 布地をまわし、布の下端を16 m/mの線に合わせます。
4. 押えを下げて再び縫い始めます。



上糸調子のとり方

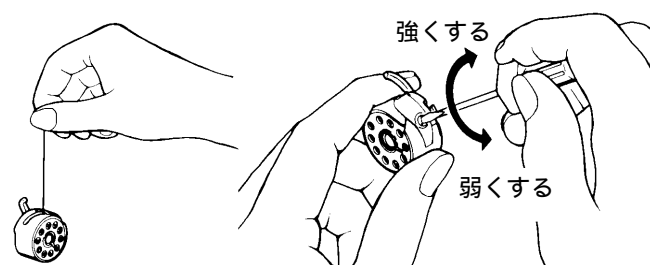
直線縫いの場合、上糸と下糸が布の
中間で適当な張力をもってからみ合
うのが、正常な糸調子です。
通常の場合は、“3”に合わせてく
ださい。



下糸調子のとり方

通常ビンケースの下糸調子は調整の必要はあり
ませんが、糸調子が正常かどうか確認する場
合は、調子パネの下に糸(綿50番)を通し、上下
に軽く振って少しずつくりだすか試してくださ
い。

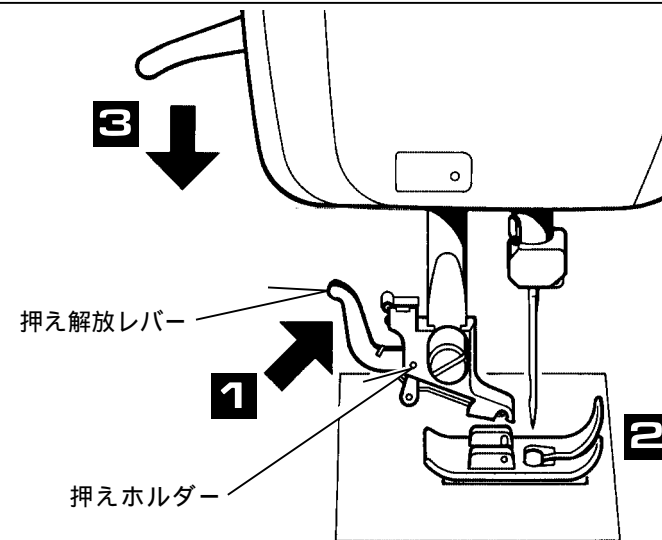
もし調整を必要とする場合は、調節ネジを少し
づつ(1/4回転以内)まわしてください。



押えの取りかえ方

押えと針を上げます。

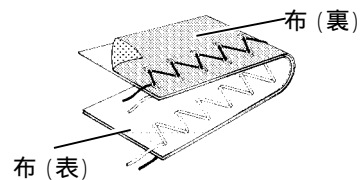
1. 押え解放レバーを上へ押すと、押えがはずれます。
2. 針板と押えの針穴が合うように新しい押えを針板の上におきます。
3. 押え上げを下げると押えがセットされます。



ジグザグ縫い

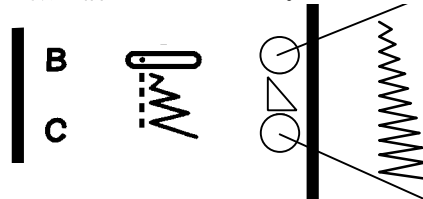
ジグザグ縫いの糸調子

布の裏側に上糸が少し出るように、直線縫いのときより上糸調子をやや弱めにしてください。



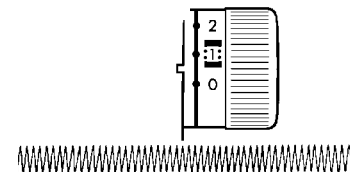
ジグザグ振り幅の選択

縫い模様(選択)ダイヤルを回して、縫い模様表示をB~Cの間でお望みのジグザグの振り幅にセットします。



サテステッチ

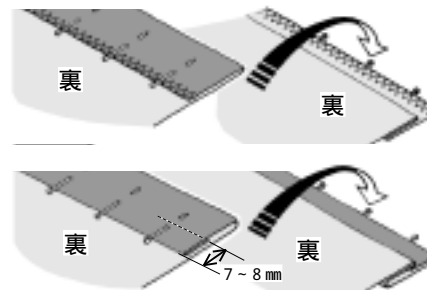
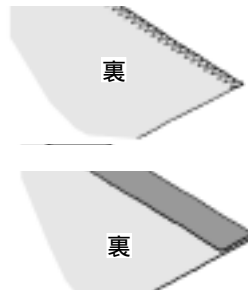
縫い目送りダイヤルを(0.5前後)の範囲に合わせます。アップリケ、刺しゅう縫いなど



かくし縫い(ブラインドステッチ)

布の折り方

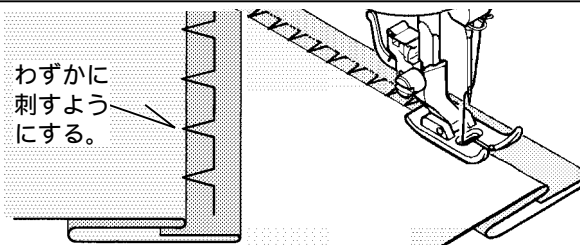
1. 布端を断ち目がかりにするか、二つ折りにします。
2. 出来上がり線にそって布を折り、折り山から約7~8mm入ったところからすそに向かって、図のように待ち針で止めます。待ち針を持って折り返します。



布地の表から縫い目が見えないようにミシンでまつる方法で、手でまつる場合よりスピーディに出来ます。ズボンやスカートの裾、ブラウスやシャツの袖口、テーブルクロス、カーテンの裾など幅広く利用出来ます。

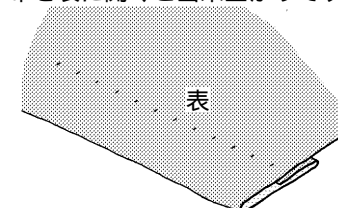
縫い方

針が左に振れたとき、針が折り山をわずかに刺すように縫っていきます。
待ち針は押えの手前に来たら順に抜いていきます。



仕上げ

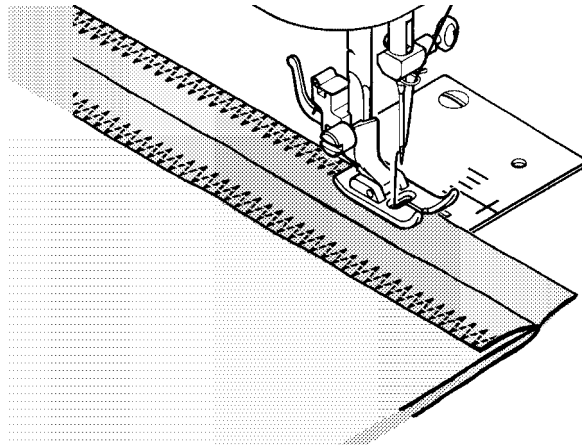
布を表に開くと出来上がりです。



点線ジグザグ縫い E

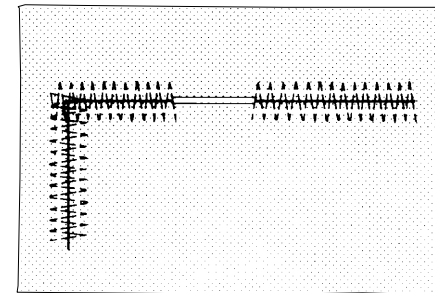
断ち目かがり

点線ジグザグ縫いは、ジグザグ縫いが一針で縫うところを三針で縫いますので、丈夫に縫え、伸縮性があります。どのような種類の布の断ち目ががりにも使えます。



つくろい縫い

布の裂け目をつくろうには、裂け目を針の下に置き、針が裂け目の両側を拾うように縫います。裂け目の角は、両側から角の中心に向かって縫います。裂け目の下に布をあてて縫うと丈夫につくろえます。



シエル縫い F

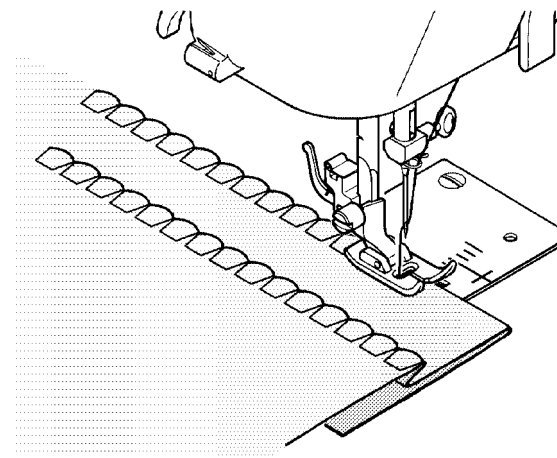
縫い方

シエルステッチは、その名の通り貝殻を一直線に並べたような装飾模様として使えますので、ランジェリーやガウンの仕上げに最適です。

針が右側に落ちる時に布地にかからないようにして縫ってください。

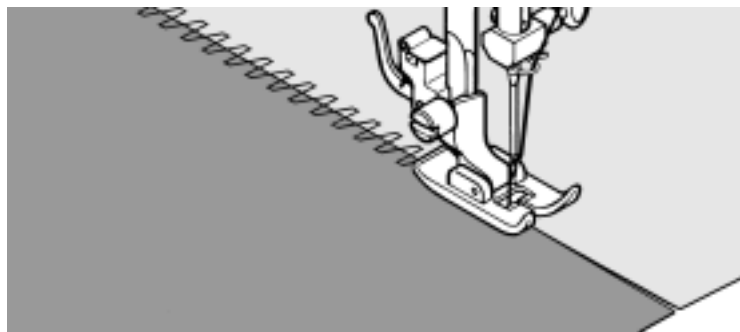
縫う前に端切れを使ってテスト縫いされることをおすすめします。

- ・ 上糸の糸調子を通常の場合より少し強めにします。



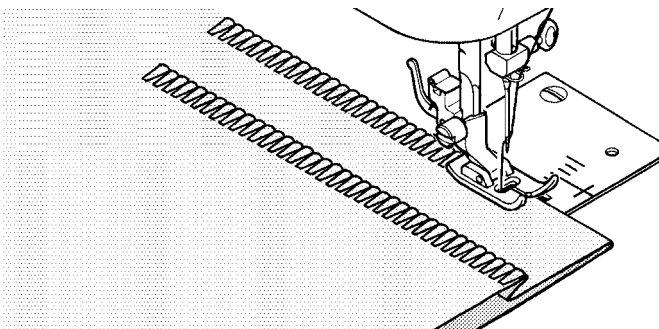
つき合せ縫い K VVVV

布と布をつき合せて縫います。
クッション、テーブルセンターなどを作る時に利用できます。



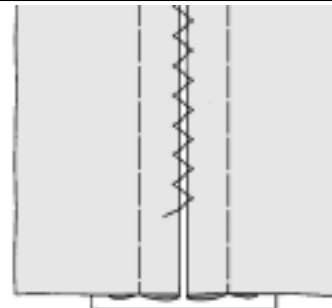
ランジェリー縫い L ^^^^

ほつれやすい布地を縫う場合に適します。
装飾模様として使えます。



ファゴット縫い M ~~~~~

布と布の間を離したままつなぎ合わせて縫います。
手芸品の飾り、室内装飾の小物作りに活用します。

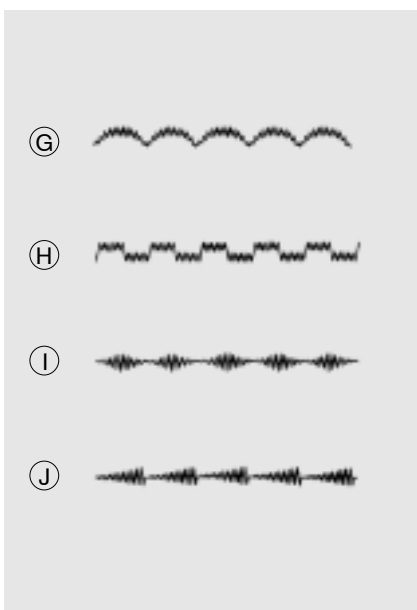


飾り縫い G H I J

使用される布地の端切れで試し縫いをされることをおすすめします。

縫い途中に糸がなくなること避けるためにボビンと糸ごまに十分な糸があることを確認してから縫い始めてください。

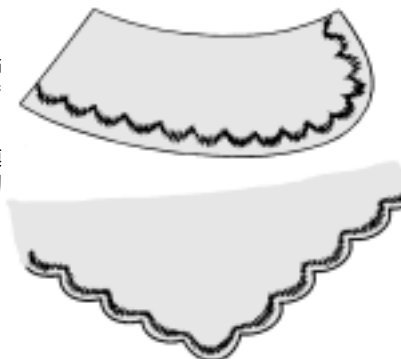
上糸調子をやや弱めにセットしてください。



スキヤロップ模様

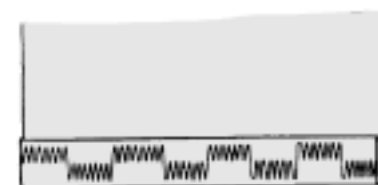
婦人服や子供服のそでやえり等の縁飾りとして、また端の始末などに利用できます。

端の始末をする場合は、布端をこの模様で縫った後、模様に沿って布地を切り取ります。この際縫い目の糸を切らないように注意します。



ドミノ模様

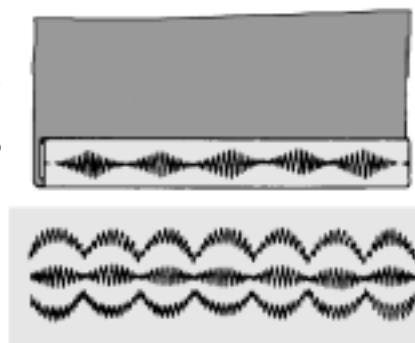
バイアステープを使い縁を折り返します。その上からドミノ模様で仕上げます。



ダイヤモンド模様

縁を折ってこの模様で縁の始末をします。

スカラップ模様とダイヤモンド模様の組み合わせでさらに美しい模様を創り出します。



アロー模様

飾り縫いとして使われるほか、ほつれやすい箇所を補強するための装飾的な三角形の止め（三つ止め）として使われます。特にポケットの両端などに装飾的に使われます。



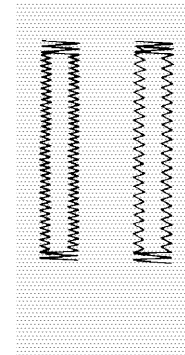
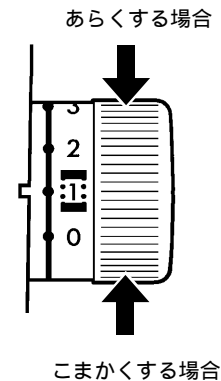
ボタンホール（ボタン穴かがり）

縫い目長さの調整

使用する布地の種類や厚さによって、縫い目のあ
らさを調整します。

使用する布地の種類や厚さによって、縫い目のあ
らさを調整します。

1. 縫い目をこまかくするには、ダイヤルを“ 0 ”
の方へまわします。
2. あらくするには、“ 2 ”の方へまわします。

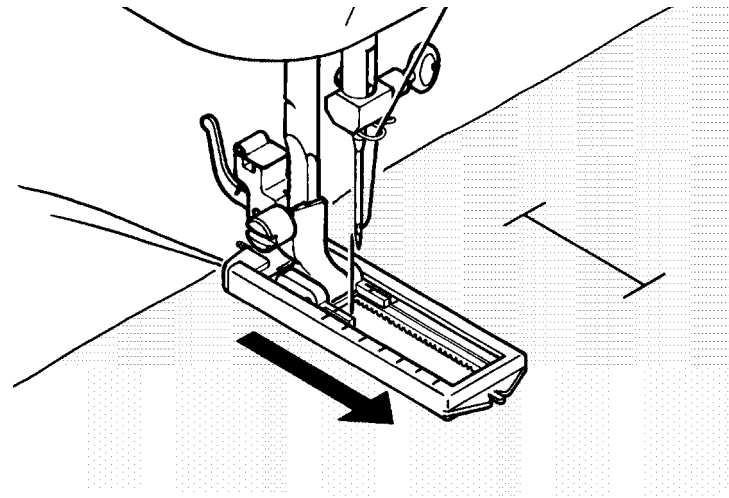


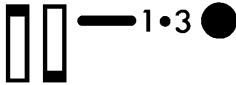
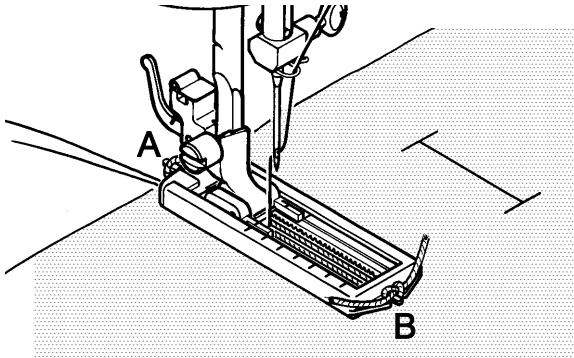
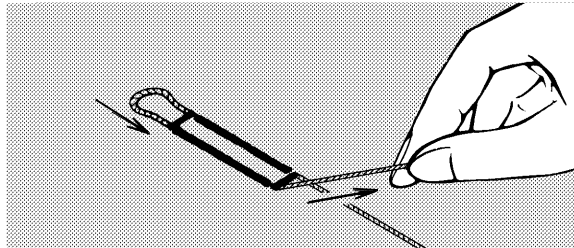
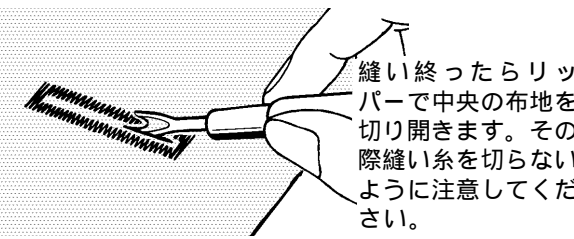
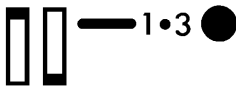
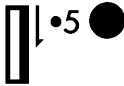
縫い始めのセット

ボタンホール押えをセットし、押えを手前にいっば
いに引っ張り出し、縫い始めの位置に合わせて押え
を下げます。

伸縮性のある布地で、進みにくい場合は、布地の
下に不織布の接着芯を張ってください。

使用される布切れで試し縫いをされることをおす
めします。



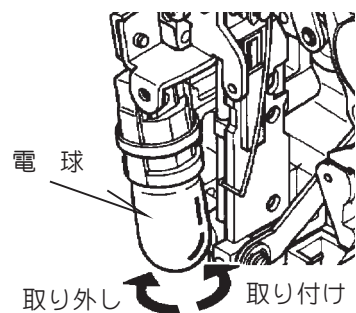
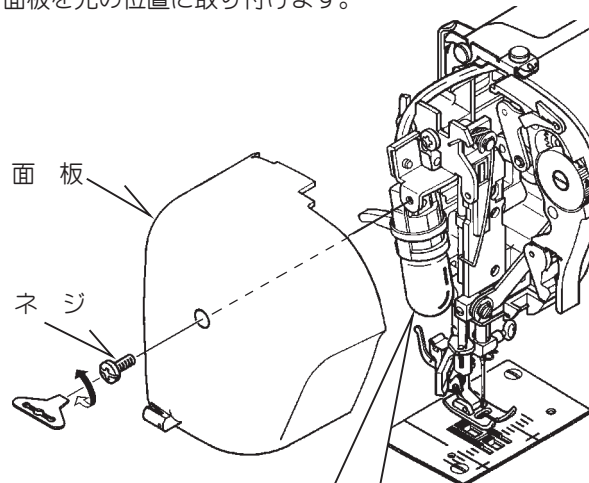
縫 い 方		芯糸入りボタンホール
	 左右に4～5針縫ってください。	芯糸を入れて縫うと、ボタン穴の伸びを防ぎ、強いボタン穴ができます。芯糸にはレース糸または穴糸を使います。 芯糸をボタンホール押えのうしろの突起(A)に引っかけて、押えの下を通して前の突起(B)に結び付けます。このまま押えを取りつけて穴かがりすると、芯糸入りのボタンホールができます。 縫い終わったら芯糸を押えからはずし、糸の端を引いてたるみをなくし、余分の糸を切り取ります。    縫い終わったらリッパーで中央の布地を切り開きます。その際縫い糸を切らないように注意してください。
	 矢印の方向へ必要な長さだけ縫ってください。	
	 左右に4～5針縫ってください。	
	 自動的に直線縫いでバック縫いしますので、縫い始めの線まで縫ってください。	
	 矢印の方向へ必要な長さだけ縫ってください。 厚い布地の場合は、ステップ2、5をもう一回繰り返すとさらに美しくしっかり出来ます。	

3. ミシンの手入れ ……

ミシンを長もちさせるためには、日常の手入れが大切です。
手入れの前に必ず電源プラグを電源から抜いてください。

電球の取りかえ

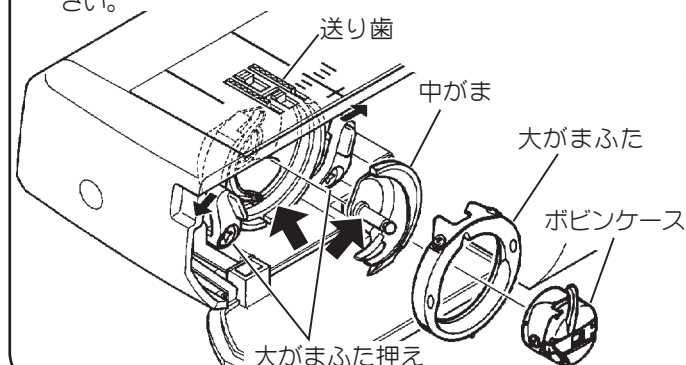
1. 電源プラグを電源から抜いてください。
2. ネジを外し、面板を取り外します。
3. 電球を左に回して取り外し、新しい電球 (110V、15W ネジ込み式) を右に回して取り付けます。
Ⓢ 15W以上の電球は使用しないでください。
4. 面板を元の位置に取り付けます。



かまの掃除

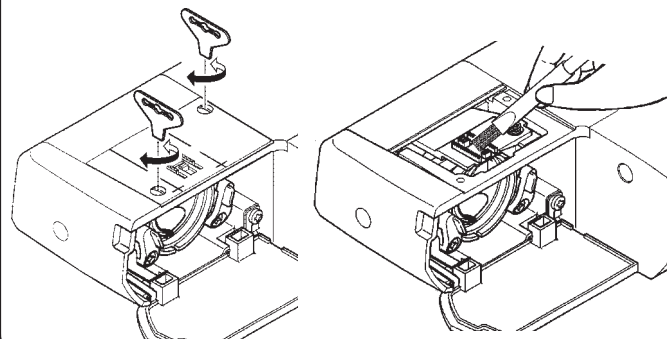
針を最上点に上げます。補助テーブルをはずし、かまカバーをあけます。

1. ボビンケースをかまからはずします。
2. 大がまふた押えを左右に開きます。
3. 大がまふたと中がまをはずします。
4. 送り歯やかまのまわりをブラシで掃除してください。
(ミシン油を矢印部分に1~2滴注油しておくとい良いでしょう。)
5. 掃除が終わったら、はずし方と逆の順序でセットし、大がまふた押えが「カチッ」と音がするまで、完全にもどしてください。



送り歯の掃除

針板を取りはずし、送り歯の周辺の糸くずなどを取り除きます。



4.ミシンの調子が悪いとき、次の原因を確かめましょう ……

ミシンが回らない

- ・ミシンが空転している。・大ネジを締めます。(7ページ参照)
- ・電源コードがただしくセットされていない。・4ページ参照。
- ・電源スイッチが“OFF”の位置にある。・スイッチを“ON”の位置にセットします。(4ページ参照)

回転が重い、音が高い

- ・糸くずやごみが送り歯やかまにたまっている。・糸くずやごみを取り除きます。(23ページ参照)
- ・針が曲っている、先がつぶれている。・新しい針と取り換えます。(9ページ参照)

布を送らない

- ・押えを下ろしていない。・押え上げを下ろして、押えを下げます。
- ・縫い目長さダイヤルが“0”の位置にある。・ダイヤルを“1～4”に合わせます。

縫い目がとぶ

- ・布に合った針・糸を使っていない。・9ページ参照。
- ・布がニット地(ジャージ、トリコットなど)である。・ニット専用針を使ってください。(9ページ参照)
- ・針が曲っている、先がつぶれている。・新しい針と取り換えます。
- ・針が針棒のいちばん奥まではいっていない。・9ページ参照。
- ・上糸調子が強すぎる。・上糸調子を弱めます。
- ・上糸の掛け方が間違っている。・10ページ参照。
- ・糸くずがかまにたまっている。・糸くずを取り除きます。(23ページ参照)

針が折れる

- ・無理に布を引っ張った。・布は軽く案内するだけにしてください。
- ・布に合った針・糸を使っていない。・9ページ参照。
- ・針が針棒のいちばん奥まではいっていない。・9ページ参照。
- ・押えが正しく取り付けられていない。・押え止めネジを締め直します。

糸が布と針板の間でだんごになる

- ・縫い始めに上糸と下糸を向こう側に引き出していない。・常に両糸をそろえて押えの下から向う側へ10cmほど引き出します。(12ページ参照)

上糸が切れる

- ・上糸の掛け方が間違っている。・10ページ参照。
- ・上糸調子が強すぎる。・上糸調子を弱めます。(15ページ参照)
- ・布に合った針・糸を使っていない。・9ページ参照。
- ・針が曲がっている。・新しい針と取り換えます。

下糸が切れる

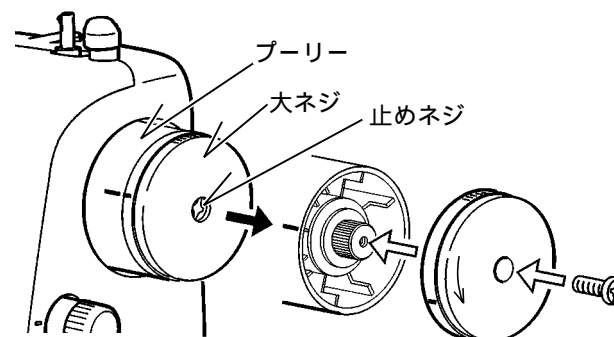
- ・ボビンケースの糸の通し方が間違っている。・8ページ参照。
- ・糸くずがボビンケースやかまにたまっている。・糸くずを取り除きます。(23ページ参照)

縫い物にしわがよる

- ・糸調子が強すぎる。・上下の糸調子を弱くする。(15ページ参照)
- ・針が曲っている、先がつぶれている。・新しい針と取り換えます。
- ・薄物に対して縫い目が大きい。・縫い目を小さくします。

厚物縫い時プーリーがゆるんで縫えない

1. 左手でプーリーを固定し、大ネジを後方に回し、締めて下さい。その位置でプーリーに印をつけます。
2. 大ネジ側の止めネジをドライバーでゆるめ、取り外します。大ネジを引っ張り取り外して、2、3cmずらせて、はめ込んでネジを締めて下さい。
3. 再度、プーリーを固定し、大ネジを後方に締めます。



5. 保証とアフターサービス（必ずお読みください）

アフターサービス等について、おわかりにならないときは、お買上げの販売店か下記のご相談窓口にお問合わせください。

①保証書 (本体同梱)	保証書は、必ず「お買上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受取っていただき、内容をよくお読みの後大切に保管してください。 「保証期間 — お買上げ日から1年間です。」	
②修理を依頼 されるとき	保 証 期 間 中	この取扱説明書をよくお読みのうえ、「ミシンの調子が悪いとき、次の原因を確かめましょう。」(P.24)の点検をしていただき、それでも故障と思われる場合には運転を停止し、ご自分で修理なさらないでお買い求めの販売店にご相談ください。 保証書の規定に従ってお買上げの販売店が修理をさせていただきますので、恐れ入りますが、保証書をご用意のうえ、お買上げの販売店にご連絡ください。お買上げの販売店にご依頼にならない場合には、下記のご相談窓口にご連絡ください。
	保証期間 経過後	お買上げの販売店にご依頼ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。 販売店にご依頼にならない場合には、下記のご相談窓口にご連絡ください。
③補修用性能部品の 保有期間	ミシンの補修用性能部品（機能維持のために必要な部品）の保有期間は製造打ち切り後6年です。	

ご相談窓口専用フリーダイヤル 0120-001137
つながらない場合は 電話 06-6900-1963
又は FAX 06-6902-0433

販売元: 株式会社 日立リビングサプライ

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29
アクロポリス東京
TEL: 03-3260-9611 FAX: 03-3260-9739

製造元: ジャガー株式会社

〒570-0011 大阪府守口市金田町 2 丁目 55 番 32 号
ご相談窓口専用フリーダイヤル 0120-001137
つながらない場合は 電話 06-6900-1963
又は FAX 06-6902-0433